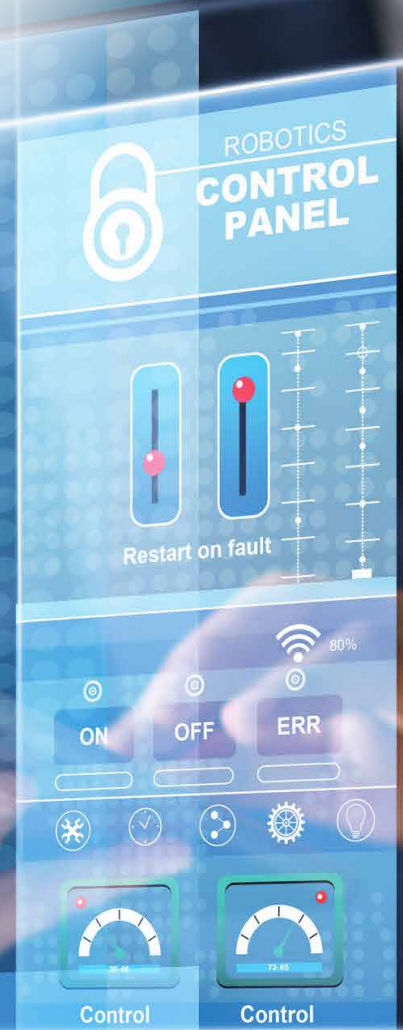


将来にわたって 有効なデータ戦略を お持ちでしょうか？

4つの質問



データ分析の重要性は今日のビジネスの世界で知られていますが、状況は変化しており、今後
も変化し続けるでしょう。破壊的創造をもたらすトレンドが起こり、そこにまた別のトレンドが生
まれることから、それは明らかです。

一例を挙げましょう。インダストリー 4.0（第4次産業革命）による産業オペレーションの変革が
注目され始めたのは最近で、そのころ人口知能はまだ話題にも上りませんでした。ところが今や
機械学習（ML）は予測分析、プロセス制御、キャパシティプランニング、異常検知など、多くの
重要な局面でカギとなる位置を占めています。

変化するビジネスニーズや、絶えず進化する技術に適応できるデータ戦略とはどのようなもの
でしょうか?以下の4つの質問に沿って明らかにしていきましょう。

1. オペレーションチームの目標は明確に定義され、 ビジネス戦略に沿ったものでしょうか?

ビジネス上の優先順位を明確にしましょう。そうすれば、データの優先順位も見えてきます。そこから具体的かつ定量的な目標を設定します。優先順位の決定が、その後の計画や実行、データ戦略の調整を左右するのです。

データ駆動型の目標やプロジェクトに取り組む際に、明確な戦略上の方向性と結果予想をドキュメント化しておきましょう。例えば、競争市場において現状の価格設定を維持するために、オペレーションコストダウンが命題となる場合、適切なデータプロジェクト目標は「廃棄率20%減」や「処理能力10%増」となるでしょう。

さらに、戦略上の方向性で考慮すべき点として、企業文化があります。イノベーション志向よりリスク回避の傾向が強い企業なら、データ戦略はその文化に沿うのが良く、広く実証されている方法を採用する方が望ましいでしょう。ディスラプション、つまり破壊的創造やイノベーションを好む企業なら、データテクノロジーとデータ戦略を早い段階から積極的に採用する可能性が高くなります。

データ戦略は生産性目標に加えて、サービスポートフォリオの拡大や製品の品質向上といった戦略的成長目標にも役立ちます。製造業では、マッキンゼーの定義したリストが良い参考になるでしょう。インダストリー 4.0で企業が価値を生み出す可能性のある8つの分野が挙げられています。

データにより 価値向上が 見込める分野



1. サービス/アフターサービス
2. リソース/プロセス
3. アセットの活用
4. 労働
5. 在庫
6. 品質
7. 需給バランスの一致
8. 市場投入期間の短縮

出典:マッキンゼー



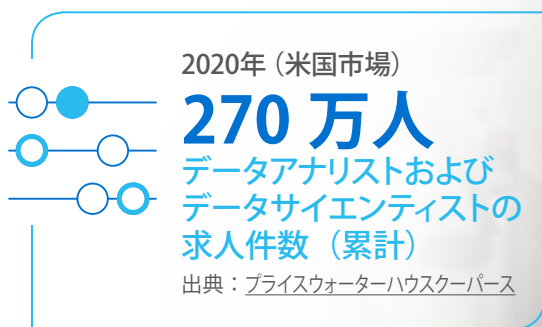
2. データ戦略を実行するために必要なテクニカルスキルはありますか？

開発者やシステム管理者はデータスペシャリストと共に業務を行います。一般的には、ML（機械学習）モデル作成といった高度なデータ関連業務のトレーニングを受けているわけではありません。データ駆動型の変革に先立ち、高度なデータスキルが欠けているオペレーションにおいては従業員にトレーニングを行ったり、新規に人材採用したり、必要な役割を担えるプロバイダと提携する必要があります。

一方、高度な専門知識が求められるデータアナリストやデータサイエンティストは、需要も高く、人件費が高額になります。そこで、多くの企業は提携企業に業務を委託しています。そうすることで、これらの高需要スキルを少ない負担で活用できるだけでなく、将来的にデータに関連する業務が増加した場合や、地理的制約、拠点、チームの枠を超えてデータ戦略を展開する場合に、スケーラビリティが確保され、より柔軟に対応できます。

エンドユーザーもまた、データ駆動型の変化に対応する必要があります。データ戦略を実行する上で、エンドユーザーのスキルも考慮に入れなければなりません。ユーザースキルを正しく判断するには、こんな質問を問いかけてみましょう。ユーザー側に新しい機能を使う準備はできているでしょうか？変化を積極的に取り入れようとするでしょうか？提供するソリューションはエンドユーザーの実際のニーズに応え、エンドユーザーが戦略的目標を達成するのに役立つでしょうか？

こういった質問に答えていけば、新しい機能を展開できるスピードと、トレーニングや教育がどの程度必要か予測できるでしょう。



3. 技術体制は整備されており、データ戦略をサポートできる状態ですか？

この問いには多くの要素が含まれます。最初によく聞かれる質問に、「最新技術よりも、すでに定評のあるソリューションを利用した方がいいか」があります。これは、企業文化を理解し、それに適した業者を選定することでその答えが見えてくるでしょう。データ戦略を成功させるには、社内チームおよび提携パートナーとの協働が欠かせません。もし業務の進め方やリスク許容度などに食い違いがあれば、プロジェクトは予定通りに円滑には進まず、長期化する恐れがあります。

次に考慮すべき重要な面はスケーラビリティです。データエンジニアリングを行う上でスケーラビリティのある技術体制を整備できれば、データサービスは需要の拡大に対応できます。またデータツールとデータケーパビリティを発展させ続け、より強力でできれば、必ず需要は伸展するでしょう。**お客様の業界の中で実績のある、シームレスアクセシビリティをもったオープンアーキテクチャ**を見つけて下さい。この3つさえ外さなければ、需要の拡大に体制が追いつかなくなるリスクを減らすことができます。

コンピューターによる電算能力も適切に活用しましょう。高度なデータソリューションには旧来の分析ソリューションよりもはるかに高い処理能力が必要です。クラウドサービスを利用すれば、ストレージと電算能力も確保されます。重要なオペレーションの場合には、十分なストレージ容量が確保されていることを条件に、セキュリティ保護されたサーバーやオンプレミスのサーバーを選択することもできます。



PLANNED
Time in Planned Downtime
01:29:18

RUNNING
Time in Running
01:51:33
Time in Running Job / Shift

4. 関連するプロセスは現状のベストプラクティスに合ったものになっていますか？

これは、データ戦略への事業投資から得られるはずの最適効果が現れるのを遅らせてしまう可能性もあるため、重要な問いです。

高度な分析ツールを利用するのに、全体のオペレーションがベストな状況になるのを待つ必要はありません。すでにオペレーション効率が高いエリアやプロセスに限定して、データ業務をパイロット的に、あるいは早期に行ってください。理由は以下の通りです。

- a) プロセス、チーム、部署が効率的に回っていない場合、まずは従来から使われているツールを利用の方が望ましいです。洗練されたテクノロジーデータツールを利用して基本的な課題を解決しようとしても、リソースと時間の無駄になる場合があります。
- b) データプロジェクトの進行中に、より大きな問題が発見された場合、そちらへの対応が優先されるのが普通です。そうすると、データ戦略が脱線し、プロジェクト進行に遅れが生じ、必要なサポートが無駄になってしまう可能性があります。そのような事態は極力避けるべきです。

初手から成功を狙う

洗練されたデータツールはオペレーション業務において、以前より手軽に使えるようになっていますが、適切な基盤がないまま変革的なデータ戦略に手を出しても限られた成果しか得られません。ここに挙げた4つのポイントを用いて、現状のデータ戦略を見直し、より高度な戦略に進む次の一手を練りましょう。まず最初に時間をかけて物事を的確に遂行することで、プロジェクトを予定通り進め、予測した実績を達成することができます。

当社のPI Systemはオペレーションデータのための企業向けデータプラットフォームです。PI Systemを活用すれば、あらゆるオペレーション業務にかかわる人やシステムに対して、複数のソースから大量で高精度の時系列データを収集、可視化、分析、共有することが可能です。お客様が情報をコンテキスト化するためのフレームワークをご提供し、より良いビジネス上の意思決定を行うお手伝いをします。

[詳細 >](#)